

くすのき

Kusunoki



クリエイティブユニット「tupera tupera」による授業の様子(児童教育学科) 写真提供: 東大阪経済新聞

CONTENTS

● 巻頭特集— 樟蔭幼稚園の新たな取り組み

伝統を踏まえ、 未来の幼児教育を築く

門 正博園長・楠田 智美先生

1

● 育むところ — 「明るく、しなやかな心を持った樟蔭生らしい医療人を育てたい」 中西 宏実先生

3

● こもれびの窓 — 「優しい心を外に出せる強い女性でいたい」 大西 幸世さん

5

● NEWS — 「くすのき祭&若葉祭」ほか

7

● WingBEAT! — 「たくさんの人と語り合い、多くを学んだ台湾交換留学」 ●●●●さん

13

● 未来に輝く☆チカラ — 「第10回田辺聖子文学館ジュニア文学賞優秀賞作品」 ●●●●さん

14

● CLUB NAVI — 高校 ソフトテニス部

15

● Information — 「春の公開講座」「入試関連イベント」など

17

● リレー★コラム 辻 壽一先生 & STAFF@SHOIN 山内 康平さん

19



はばたけ、知性。





伝統を踏まえ、 未来の幼児教育を築く

附属幼稚園の新たな取り組み

68年の伝統を持つ大阪樟蔭女子大学附属幼稚園は、子どもたちが未来を生きるための「根っこを育てる教育」を掲げています。大学附属幼稚園としての特色を生かして進めているプログラミング教育と英語教育について、門園長と楠田主任教諭に聞きました。



遊びながらプログラミング思考

2018年4月に年長クラスでプログラミング教育をスタートさせました。全国の小学校で2020年度から導入されるプログラミング教育に対応したものです。プログラミングといえば「コンピュータを動かすしくみでは？ そんな難しいことを幼稚園で？」と思われる方もおられるかもしれませんが、門園長は「プログラミング思考は段取り力のこと」と言います。「新しい遊びを教わった子どもたちが、基本となるルールを覚え、そのルールに即してどうやって遊ぶか、そのためにはどうすればいいかを



大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 園長
大阪樟蔭女子大学児童教育学部 学部長
門 正博



大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 主任教諭
楠田 智美

考え、実行し、目標を達成する。そこまでの手順は、遊びもプログラミングも同じです」

附属幼稚園では子どもたちがペアになり、ミニロボットを使って、自由に貼り替えられるカラーシールで経路を指示するというプログラムを考えていきます。「この企画は学園のITセンターのスタッフと相談して、独自で完成させたものです」と園長。「どのような道を通ればよいかを考えながら、指示シールを貼っていく。遊びを通して目的や手順を学んでいます」

児童教育学科の学生もサポート

「子どもたちは、新しいおもちゃを面白がっていて、こちらが予想もしない遊び方を考え出します」（門園長）。最初は戸惑いがちだった子どもたちも、どう動かそうか考えるようになり、ペアになって作業に取り組んでいます。保護者の方からも「『楽しかった!』と子どもが喜んでいます」「気がついたら、自然に自分の考えをきっちり伝えられるようになっていた」などの声が上がっています。

プログラミング教育は年10回の予定。子どもたちをサポートするのは大学の児童教育

学部の学生たちです。「園児にとってはもちろん、大学生にとっても子どもと接するだけでなく、IT分野に触れるいい機会になります。教育の世界に出て行く前に様々な経験を積んでほしい」と門園長は話します。

ネイティブ教員による英語教育

子どもたちが遊びの中で英語の音を聞く機会を増やしたいという考えから、ネイティブ・スピーカーによる英語教育が始まっています。幼児英才教育としてではなく、異文化に触れ、柔軟性を高める教育として進められるものです。授業はダンスや歌などを中心に楽しく進め、子どもたちが戸惑わないよう、また英語嫌いにならないように配慮しています。

門園長は「幼いうちに外国語の音に慣れて



おくことは、とてもいいこと。子どもたちには、いろいろな言葉が世界にはあり、いろいろな人がいることを知って、多性に触れてもらいたいですね」と期待を膨らませています。また楠田先生は「言葉だけに頼らない人との関係の築き方も得られたら」と語りました。英語教育は保護者の方からも「子どもは家にいる時も、英語の動画を見ると喜びます」「英語の先生は楽しくて、大好きだと言います。会えるのを楽しみにしています」などと好評です。

樟蔭中学校・高校とも連携

英語教育以外の面でも、附属幼稚園は高校の生徒や先生、大学との繋がりを大切にしています。高校との繋がりの例としては、家庭科の先生による給食メニュー監修や、児童教育コースの生徒たちによる行事へのボランティア参加などが挙げられます。大学は、各学科がそれぞれの専門を生かして幼稚園をサポートしています。いろいろな専門家、さまざまな分野を学ぶ生徒、学生たちが日常的に幼稚園と関わり、フランク、フレンドリーな関係を保っていることが、樟蔭学園の大きな特色です。

2019年度入園から ファミリー入園制度が始動

2019年度の入園者から、入園希望の園児の保護者等が樟蔭学園のいずれかの学校を卒業(修了)等している場合、入園にかかる負担を軽減する「ファミリー入園制度」を適用します。附属幼稚園は1951年の設立以来、伝統の制帽、制服、バスケット、カバンなどは常に可愛いと評判をいただけてきました。入園されるお子さんの中には「おじいちゃん、おばあちゃんも樟蔭」という方や、同窓会に親子で来られる方もおられます。「ここなら安心」と何世代にもわたって選ばれる保護者の方から、この制度はより深いつながりが感じられ、うれしいという声が寄せられています。

明るく、しなやかな心を持った 樟蔭生らしい医療人を育てたい



樟蔭高等学校
看護系進学コース 主任/
樟蔭高等学校教諭

中西 宏実先生

中西宏実先生は、樟蔭中学校・高等学校の出身。大学院で臨床教育学を学んだ後、他校で看護医療進学チームの設立に関わった実績が認められ、看護系進学コースの開設を決めていた母校から主任として迎えられました。日々、社会から求められる医療人を育てるために力を尽くしています。

■樟蔭出身生で医療チームを目指して

中学校、高校に看護系進学コースが生まれる背景には、近年の医療ニーズの高まりがあります。この分野は、命の誕生から最期までに関わる重要な仕事ですが、人手不足に悩んでいます。いま、社会で必要な医療人を育てることはとても重要です。絶えざる自己研鑽とともに「寄り添うこと、人間らしさ」が求められる医療の現場。私たちは将来、看護師、理学療法士、作業療法士などさまざまな医療職に進んだ樟蔭の卒業生たちが、医療チームを作り活躍するようになってほしいと、このコースを開設しました。2018年の3月に1期生が卒業し、4月には4期生が入学しました。

■座学と実習の好バランス

まず理科系の学力強化を図っています。化学、生物は進学した後には必ず必要になります。現場に出ると意外とと思われるかも知れませんが、コミュニケーション能力、プレゼンのための国語力が重要になってきます。また、英語教育にも注力しています。2019年か

hagukumu

育
む
こ
ころ

06

kokoro

らこのコースは、特進コースと同じユニットに組み込まれます。

座学以外では、体験実習や見学が充実していることが特徴です。2年生には3回の学外実習があり、そのうち2回は日本看護協会の協力を得て大阪府で看護体験を行います。あと1回は認知症ケアに力を入れている奈良県の医療施設での実習です。生徒はこの施設の併設看護学校生と交流しながら、リアルな医療の現場を知っていきます。さらに、YMCAと連携して、車椅子登山サポートに挑戦するなど意欲的です。明るい樟蔭の生徒たちは老人福祉施設の喫茶ボランティアでも好評で「また来てほしい」と言われます。

■学外ネットワークの充実を

生徒には医療の大変さ、厳しさを伝え、その上で「やってみたい」と判断させねばならないと思っています。大学や専門学校に進学してから「こんなはずじゃなかった」と失望させたくないですから。そのためにもっと体験、実習のネットワークを広げたいと考えています。幸いなことに樟蔭内外の教職員、医療機関の皆さん、また実習先の患者さんも協力的で、大勢のネットワークで実習が実現できています。

生徒たちは、実習や患者さんとのコミュニケーションを通じ、モチベーションを高めていきます。体験授業のたびに、それぞれの希望が具体化していくのを感じます。今後も大学、専門学校からの指定校推薦を増やし、信頼を育てていきたいですね。

■広がる看護系コース卒業生の進路

看護系進学相談会の様子



看護師を志望する生徒が多いのですが、これは子どもの頃の思い出などが動機になっているようです。中には管理栄養士や臨床工学技士(注1)、言語聴覚士(注2)を目指す人もいます。今後は医療ソーシャルワーカー(注3)や薬剤師など、さらに多様な進路を目指す人が出てくると思います。大阪樟蔭女子大学の心理学科は精神保健福祉士を養成していますから、医療ソーシャルワーカーを目指す人も増えると考えられます。

看護師を志望する生徒が多いのですが、これは子どもの頃の思い出などが動機になっているようです。中には管理栄養士や臨床工学技士(注1)、言語聴覚士(注2)を目指す人もいます。今後は医療ソーシャルワーカー(注3)や薬剤師など、さらに多様な進路を目指す人が出てくると思います。大阪樟蔭女子大学の心理学科は精神保健福祉士を養成していますから、医療ソーシャルワーカーを目指す人も増えると考えられます。



■仲間と助け合い、夢の実現に向かう

進路を決めた生徒たちは、自分に足りないところを変えていこうと前向きに取り組んでいます。例えば、絶対に看護師になるぞと決めた生徒は、友人と面接の練習を始め、部活での頑張りをアピールしようなどと考えるようになるのです。それぞれの夢を軸に、みんな頑張っています。いい意味で頑固、芯が強い生徒たちですね。私はそんな生徒たちが迷った時に声をかけやすい、相談しやすい先生でいようと心掛けています。

入試合格はゴールではありません。大切なのはその後。人の気持ちがわかる人になって、「ありがとう」と患者さんに言われるようになってほしいし、患者さんが最期まで「生きていてよかった」と思えるように、心に寄り添うことを大切にしてほしいですね。生徒の将来に関しては、もちろん保護者が安心できるようにしないといけません。高校生でも夢を持って学んでいる人は、すでに大人として敬意を持って接しなくてはと思っています。保護者の方とともに、夢に向かう生徒に寄り添いたいと思っています。

(注1)血液浄化装置、人工心臓装置、人工呼吸器などを安全に操作、管理する専門職
(注2)患者さんの「話す、聞く、食べるなどのリハビリを行う専門職
(注3)患者や家族の心理的、社会的問題の解決・調整をサポートする専門職



優しい心を外に出せる 強い女性でいたい

消防士 大西 幸世さん

1990年3月 樟蔭中学校卒業
1993年3月 樟蔭高等学校卒業
1995年3月 樟蔭女子短期大学 英米語科卒業



東方面隊での勤務中の様子



大阪市初の女性消防士に採用され、現在は司令課東方面隊で現場の指揮隊として活躍中の大西幸世さん。樟蔭で培った「自分の力で道を切り開く」精神は、今も心に息づいています。

私は中学校から短期大学まで樟蔭で過ごしました。樟蔭中学校に入学した理由は、先に入学した姉に強く勧められたからです。中高・短大時代を通じてずっと一緒に過ごした友人とは、今も仲がよくて、喧嘩をしてもなぜかすぐに仲直りをしてしまいます。当時と比べると校舎はきれいになりましたが、地下道など、独特の雰囲気が変わっていないのはうれしいですね。

◆仲間や先生との強い絆

中学校からバスケットボール部に入り、高校はクラブ中心の毎日でした。顧問で担任だった中村喜則先生に「今、頑張ったら何でも乗り越えられる」と励まされながら熱血指導を受けました。そのおかげで強い精神力が養われたと思います。思い出深いのは、長野県飯山市の



北竜湖畔で合宿した時のこと。先輩と後輩の2人組で約2kmの湖畔を全力疾走する体カトレーニングがあり、それはとてもきつい練習でした。一生懸命になって先輩の背中を追い、体力面でも鍛えられました。

◆大阪市初の女性消防士

短大時代は語学に興味を持ち、英米語科の英語コースに在籍。1年目は単位取得に一生懸命で、2年目は就職活動。2年間を駆け抜けた感じで、短いけれど充実した時間を過ごしました。

就職活動中に、大阪市消防局が初めて女性の採用試験を行うと知りました。消防士だった父から仕事のやりがいなどを聞いていたので、「これや!」と思いましたね。試験の倍率は50倍ぐらいだったと思います。筆記試験のほかに、基礎体力試験があって、8人の女性が採用されました。

消防学校では、同期の男性たちと一緒に半年間の訓練を受けました。まだ女性隊員の扱いも確立されていない頃、私たちから教官に「男性と同じ訓練をさせてください」と頼みこんで、建物の8階からロープ1本で壁を降りたり、重たいホースを持って走ったりという訓練をしました。体力で男性に負けるのは仕方がないことでしたが、そのハンデも同期と力を合わせて乗り越えました。配属先は

違っても、今もいい仲間として心で繋がっています。

◆広報活動や救急隊員を経験

最初は浪速消防署に配属されましたが、火災現場でなく、火災予防の部署で広報業務を担当しました。幼稚園などで紙芝居をしたり、建物の消防設備の立入検査をしたり。そんな毎日の中で、同期の消防士と結婚。妊娠、出産を経験しました。その後、救急隊員となり3年間、淀川消防署で24時間勤務に就き、救急車の運転や傷病者の状態を確認し、応急処置にあたりました。多いときは1日17件の出場がありました。

2009年から大阪市消防局の本部にあたる、指令情報センターで勤務しました。市内から通報される全ての119番がつかがり、ここから消防隊、救急隊の出場が指令されます。通報を受け、一刻も早く救急車を現場に向かわせねばならないのに、自分の居所がわからない方もいます。相手を落ち着かせることに神経を使いました。

◆現場と本部をつなぐ方面隊

現在は、現場の消防車と本部のパイプ役、活動支援を行う方面隊の仕事をしています。大阪市に4つある方面隊のなかで東方面隊に配属され、6つの行政区を担当しています。実は、この方面隊でも女性の起用は初めてでした。仕事の内容は、火災現場にパソコンなど通信機器を積んだ赤いワンボックスカーで出場し、火災の状況などを本部に伝え、本部と連絡を取りながら、広く周囲を見て、どう活動すべきかを活動隊に助言したりします。また、消防活動の課題を検討し、訓練計画を立案するといった仕事もしています。

◆自分らしく生きることを学んだ

消防署は基本的に男社会で、方面隊も現場経験を積んだ男性隊員が長年頑張ってきた職場です。「女性が入ってあかんようになった」と思われたくはありません。しかし男性の真似をするのではなく、自分らしく生きたいですね。優しい心遣いや気遣いも外に出していける、強い女性でいたいと思っています。樟蔭で学んだ8年間は、男子に頼るのではなく、なんでも自分でやろうという気持ちを育ててくれました。

現在、大阪市の女性消防士は約120人に増えました。私と同様に災害現場で活動する女性隊員もいます。これからも仕事に邁進し、さらに女性消防士の道を切り開いていけたら、と思っています。

今、こうして女性消防士として頑張ってきたのも、学生時代に樟蔭の節度ある校風の中で女性として強く生きることを教えてもらったからだと思っています。その大好きな学校で私の子どもたちにもいい経験をしてほしいと思い、樟蔭中学校・高校に進学させています。かつて私が習った先生も残っておられるし、同輩、後輩も樟蔭で教員となっているので、安心して子どもを任せられます。子どもたちも「樟蔭大好き!」と言っていますよ。



中学校時代、レクリエーション大会のリレーの様子



バスケットボールに夢中になった高校時代、部活の仲間とは今も友人



短大の卒業式

中村喜則先生と



おにし・さちよ 東大阪市出身。1995年4月、大阪市消防局初の女性消防士として採用され、火災予防の啓発活動に携わる。2006年から淀川消防署で救急隊員として勤務。2009年から大阪市消防局指令情報センターで119番通報への対応業務にあたる。2015年から司令課東方面隊に着任。消防司令補。

大学



「ワンダフル」をテーマに「くすのき祭」

第68回くすのき祭を10月27日(土)、28日(日)に開催しました。2018年のテーマは「ワンダフル〜笑顔ワンさか、みんな笑いな祭〜」。樟蔭学園が創立101年目を迎え、新しい一歩を踏み出したという思いと、成年にちなんだ大阪らしい洒落の効いた笑いをテーマに込めました。1日目は、学生が企画・出演するファッションショーとヘアショー、インディーズライブや恒例「ミス樟蔭袴コンテスト」を開催。さらにダンスや吹奏楽など、見どころや聞きどころいっぱいのパフォーマンスで、来場者を楽しんでいただきました。2

日目は演劇部やマンドリンクラブが日ごろの練習の成果を披露。ピンゴ大会や男装コンテスト、模擬店・展示コンテストなど楽しい催しが続きました。トークショーでは、ゲストのさわやかな笑顔とトークで100年会館に詰めかけた来場者の皆さんを迎えました。天候にも恵まれ、大きな賑わいを見せた2日間、ご来場いただいた皆さんに心から感謝いたします。来年も、よりいっそう楽しんでいただけるくすのき祭をめざして頑張ります。どうぞご期待ください。



学園

「ホームカミングデー2018」を開催しました

くすのき祭と同時開催の日となった10月27日(土)、ホームカミングデーを開催しました。ホームカミングデーは30歳、40歳、50歳と10歳区切りの年齢を迎えられた卒業生に向けて企画されたイベントで、今年度は2年分の卒業生約450人にお集まりいただきました。希望者への樟蔭館見学ツアーやオリジナルグッズ販売、イングリッシュ・サロンのご案内、田辺聖子文学館特別企画展の見学など多岐にわたるイベントや懇親会を楽しんでいただきました。懇親会では今年から新たに、中高コーラス・ハーモニー部の校歌斉唱が実現し、世代を超えた絆を感じていただきました。



幼稚園

高校生もお手伝い 附属幼稚園の運動会



2018年の附属幼稚園の運動会は、予定していた10月6日(土)に予想以上の雨が降り、順延となったので、8日(月・体育の日)に開催しました。前日までとは打って変わった快晴のもと、園児たちは元気に走り、ダンスバトルをするなど力いっぱい体を動かしました。保護者や来賓の方々、園長もダンスや競技に参加する一幕があり、会場は終始大盛り上がりでした。年長組が「樽太鼓」を叩いた時には、運動場いっぱいに太鼓の音が響き渡り、最後のリレーは白熱した戦いになりました。なお、この日は児童教育コースの高校生有志が参加し、園児の水分補給への声掛けやトイレ誘導、競技の準備などを手伝いました。皆一丸となって大いに笑い、汗を流した一日となりました。



中学校・高校

今年の文化祭は「新風大時代」

2018年の中学校・高校の若葉祭(文化祭)は9月28日(金)と10月2日(火)に開催しました。テーマ「新風大時代」は、今年の文化委員のテーマ「疾風怒濤」や、自治会年間方針である「No Revolution, No Evolution」から練り上げて命名。「次の100年に向かう第一歩」としてさらに伝統と歴史を尊び、この文化祭から新しい時代を切り開いていこうという決意を表しています。第1日目は在校生のみが参加、2日目は友人や家族を招待するプログラム。台風の影響により、2日目は平日開催となりましたが、多くの方が生徒たちの頑張る姿を見ようと足を運んでくださ



いました。「2日間のために全力で準備してきたので、来場者の皆さんに楽しんでほしい」(高校自治会会長の●●●●さん)、「平成最後の文化祭、悔いなくやりきりたい」(文化祭実行委員長の■■■■さん)などと熱い思いで迎えた文化祭当日。クラブごとの演技や合唱、ミュージカルなどの舞台発表や、各教室でのコース、各学年による展

示や取り組みを発表しました。また、本年度から優秀表彰の対象が中学3年生まで拡大され、中学生も発表には気合いが入ります。舞台や教室展示に打ち込んだ生徒たちや、舞台裏で支えた実行委員会のメンバーたち。みんなで作り上げた文化祭は生徒をひとまわりもふたまわりも大きくしてくれました。



元気いっぱいの 体育祭



9月25日(火)、体育祭を「丸善インテックアリーナ大阪(旧大阪市体育館)」で行いました。昨年までは中学校、高校と別開催でしたが、本年度から約1100人の樟蔭生が合同で実施することになりました。開催式に続く競技は中学生の玉入れでした。午

前中はクラス対抗で綱を取り合う「ひげひげどん」など恒例行事に新競技の大縄跳びも加わり、盛り上がりました。午前中の最終プログラムは、高校1年生と中学3年生の合同ダンス。会場全体に熱気が溢れました。午後からは伝統競技「みんなでパネル」「青春の躍動」と続きました。高校2年生の「みんなでパネル」は、事前に作ったパーツを貼り合わせ、クラス担任の巨大似顔絵を完成させるプログラム。面白い顔、似ている顔など、クラスごとに工夫が見られました。高校3年生の創作ダンス「青春の躍動」は、生徒たちが持てる力を存分に発揮し、強い団結力を見せつけました。最後の競技はクラス対抗リレー。最後まで全力疾走した選手たちに、会場から大きな声援が飛んでいました。準備・進行・後片付けは、生徒たちの有志150人の体育祭実行委員会メンバーが担当しました。PTA、同窓会の皆様のご支援もいただき実現した、明るくフレンドリーな体育祭。樟蔭の新たな伝統が生まれた輝かしい一日でした。

